

教育新時代に *Challenge* ITC を活用したコミュニケーションの大切さ

新教科「メディア・コミュニケーション科」を発信

京都教育大学附属桃山小学校 副校長 児玉 裕司

5月20日(土)に近畿国立大学附属学校園PTA連合会の実践活動協議会が京都教育大学附属桃山地区学校園担当で行われました。テーマとして「大人も学ぼう メディアとの付き合い方」と題して、近畿国立大附属学校の大勢の保護者の方に参加して頂きました。本校は、ICT教育(ICT=information and communication technology)を推進して、これからの情報教育のモデル校として、発信している一面を紹介させて頂きました。

本校は、子どもの自由な発想を大切に、「子どもの側から教育を考える」という教育理念のもとにこれまで学校教育を進めて参りました。これは、1965年より始まった「創造性教育研究」から現在に至るまで本校の学校教育の根幹としてしっかりと子どもたちに受け継がれています。友だちの意見を共感的にしっかりと聞き、まず受け入れた上でクリティカル・シンキング(英: critical thinking)に考え、意見を交わす姿です。

「批判的思考」とは、字面から、「否定的に」や「非難するつもりで」などの意味合いに受け取る人もいると思われそうですが、実はまったく逆です。

ここでいう「批判」とは、「論理的・合理的・多面的に評価を下すこと」といった意味であり、批判的思考とは、「適切に批判対象を理解し、より高度な判断を下す」ための思考プロセスなのです。ですから、決して対するという意味ではなく、まず受け入れ共感することの大切さを子どもたちは理解しています。この「コミュニケーション」を大切に日々授業に取り組んできた素地があるからこそ新教科「メディア・コミュニケーション科」が創設できたと考えます。

私たち大人は、アナログもデジタルもどちらの長短所もある程度理解できる場所があります。10年一昔と言われた言葉も、今では、5年・3年一昔と言われてもおかしくない社会へとなり、子どもたちの世代は、ほとんど全てのものがデジタルの環境で育って来ると言えます。簡単に入手でき、溢れる情報の中から自分に必要な正しい情報を取捨選択したり、また正しい方法で発信していく力が今こそ必要になってきています。それは、簡単にインターネットから情報を引き出せたり、機器を器用に操ることができることを目指すものではありません。機器の操作に関しては、いろいろなことを知り理解した上で、たくさんある選択肢の中から一番適切な方法を選ぶ必要があると考えています。そしてこれからの時代に一番大切なことは、物怖じせず人と関わるコミュニケーション能力だと考えます。顔を合わせて話すことや相手意識を常に持って人と関わるのが今まで以上に必要になってくるのです。



(充電の工夫)

この研究を円滑に進めることができた理由のひとつは、「人間力」育成のカリキュラム開発の研究に取り組んだことがあげられます。また、何よりも教職員全員が電子黒板やタブレットや機器を積極的に使うように努力を重ね、「メディア・コミュニケーション科」について学年で、低・中・高学年ブロックで常に議論をし、研究を進めてきたことがあげられます。



(一人1台のタブレットを使つての授業)

新しい研究を進めていくとき、チーム学校としてひとつにまとまり、協力して難しい課題に一生懸命取り組まねばなりません。ご参会いただいた方々には、京都教育大学副学長・連合教職実践研究科長・京都教育大学教授 浅井和行先生の「親子で考えるメディアとのつきあい方」の講演や桃山地区からの提案、小学生から「情報教育」を進めていく必要性を感じていただけたと思います。附属として、附属桃山小学校として、常に一步先（3年・5年先）を考え発信していきます。

附属桃山小学校 副校長 兒玉 裕司

京都教育大学附属育友会

京都教育大附属育友会イベント

村田 光宏

今年度、京都教育大附属高校で育友会会長を務めさせていただいています。附属校園には二人の子供が長年お世話になっており、保護者として何かお手伝い出来る事はないかと、小学校の総会に、出席しましたところ、ご縁により次年度から、監査役を任命され、その後、会長、副会長、振興会の役員等、十二年間、貴重な体験を多数させていただきました。子供達のお蔭で、色々な保護者にも出会えました事に感謝致しております。

京都は六つの附属校園があり、年に一度、保護者向けの合同体育大会が開催されており、今年も第五十二回を迎えます。今年度は10月22日(日)に開催予定でしたが、残念ながら台風21号の影響で中止となりました。

毎年種目は男子ソフトボール、男女バレーボール、玉入れ、綱引きと誰もが参加いただけるようご用意されています。各校園のカラーシャツを作成し、大変盛り上がる行事があります。あくまで親睦行事ではありますが、熱気溢れる試合が行われております。

また、バドミントン同好会では、附属OBの保護者も参加いただける、その日だけの特別ルールにおいて、ダブルス式チームリーグ戦を開催されております。私も幾度か参加していますが、かなり本格的な試合を体験させていただきました。



その他にも、合体がキッカケでOBと現役の雄志に

よるソフトボールチームも結成され、育友会の役員になっていただく方との出会いの場ともなっております。

伝統ある茶道同好会の初釜には、本部役員も参加させていただいております。

いずれにしても、教職員のご理解と保護者のご協力で、附属校園を一緒に支え、子供達の教育に活かされれば、地域モデル校として、これからも発展し、地域にも社会貢献していけると私は考えております。最後になりますが、全国の附属校園の皆様、このような貴重な学校を、各地域で特色を出しながら、子供達の育成の場を支えていきましょう。

ありがとうございました。

大阪教育大学附属特別支援学校

心豊かな成長と、心のバリアフリーを育む

今年度、大阪教育大学附属特別支援学校 PTA 会長を務めます、大西扶由子と申します。皆さまどうぞよろしくお願い申し上げます。

近畿国立大学附属学校園 PTA 連合会の皆さまには、日頃より本校へのご理解ご支援を賜り誠にありがとうございます。

現在本校には、小学部 15 名、中学部 18 名、高等部 20 名、合わせて 53 名の児童生徒が通っています。

子どもたちの障がいの種別や程度は様々です。学校ではそれぞれの子どもたちの発達段階に応じて社会に出るまでに必要なことを学ばせてもらっています。

保護者も子どもたちと共に心豊かに成長していけるようにと願い、日々を過ごしております。



写真の花々は校門前の花壇を緑化ボランティアのお母さんたちが、四季折々の草花の美しさを子どもたちに感じ取ってほしいと愛情をこめて育てているものです。

本校にお越しになる機会がございましたら、ぜひご覧になってください。

7月には毎年恒例夏の大イベント「夕べのつどい」を行っております。

在校生、卒業生、附属平野五校園五校連の皆さまとの交流です。鉄板で豪快に焼き上げる名物の焼きそば、から揚げ、ポップコーンなどの出店や、大阪教育大学 YOSAKOI ソーランサークル凜嬢さんの演舞、夕方には打ち上げ花火と楽しいつどいになっております。



9月には附属平野五校園五校連の皆さまにもご協力いただき、PTA ふようバザーを盛大に開催しております。地域の皆さまにも毎年お越しいただいています。

昨年度は平野区のマスコットキャラクター「ひらちゃん」を招き、子どもたちにも大人気で笑顔があふれておりました。売り上げは子どもたちの学校

生活を充実させるものに、還元させていただいております。

特別支援学校が国立大学附属学校園の中において存在意義を出せるように、日々努力を積み重ねていく所存でございます。

これからも、ご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。